

◆プログラム

I. カンタータ第103番『あなた方は泣き喚くだろう』BWV103

1. 合唱「あなた方は泣き喚くであろう」
赤塚温子(sop)、在原泉(Alt)、吉谷地勝久(Ten)、小菅悠樹(Bas)、佐々木保雪(バス・レチタティーヴォ)
2. テノール・レチタティーヴォ「誰か嘆きに沈まぬ者があろうか」 Ten.佐々木幹雄
3. アルト・アリア「あなた以外に医者は見出せ得ぬ」 Alt.佐々木温、小川曉美
4. アルト・レチタティーヴォ「あなたは私を、この不安の後で再び元気づけてくださる」 Alt.茂木容子
5. テノール・アリア「立ち直れ、悲しみ崩れ折れし思いよ」 Alt.西野真史
6. コラール「愛する御子よ、私は片時の間あなたを見捨てていた」

II. カンタータ第93番『ただ愛する神のみに支配を委ねる者は』BWV93

1. 合唱「ただ愛する神のみに支配を委ねる者は」
2. バス・コラール&レチタティーヴォ「この重い憂いは我々に何の助けを為すのか」 Bas.芳賀郁夫
3. テノール・アリア「ほんの少しの平安をも保ちなさい」 Ten.佐々木幹雄、西野真史
4. アリア・デュエット (Sop.&Alt.合唱)「神は正しい喜びの時を知っておられる」
5. テノール・コラール&レチタティーヴォ「思ってはならない、激しい患難の中にあっても」 Ten.西野真史
6. ソプラノ・アリア「私は主を仰ぎ見つめ」 Sop.小原育世
7. コラール「歌い、祈り、神の道を歩み進め」

III. アンコール

1. 『マタイ受難曲』BWV244より 第25曲コラール「神のみ心は常に成し遂げられる」
2. カンタータ第21番『私は多くの憂いにあつたが』BWV21より 第9曲コラール「再び満ち足りよ、我が魂よ」
ソリスト：斉藤純子 (Sop.) 金子千鶴、在原泉 (Alt.) 武田宏 (Ten.) 佐藤和久、遠山直哉 (Bas.)
3. カンタータ第147番『心と口と行いと生き方が』BWV147より 第10曲コラール「イエスはいつも私の喜び」

指揮：佐々木正利

オルガン：剣持清之

ピアノ：菊池玲子

合唱：盛岡バッハ・カンタータ・フェライン

◆盛岡バッハ・カンタータ・フェラインの今後の活動予定

- ◎『ライブツィヒへの旅 vol.2 』2023年2月12日 盛岡劇場メインホール バッハ：カンタータ第93番、第103番
- ◎『3.11.祈りのコンサート vol.10 』2023年3月11日 仙台電力ホール モーツァルト：レクイエム（オシュトリীগ版）
- ◎『ライブツィヒへの旅 vol.3 』2023年6月25日（予定） 会場未定 バッハ：カンタータ第27番、第140番
- ◎『ヴィンシャーマン追悼演奏会』2023年11月5日 盛岡市民文化ホール バッハ：カンタータ第27番、第93番、第140番
2023年11月3日 東京第一生命ホール 曲目：同上
~~2023年11月4日 会場未定 曲目：同上~~
- ◎『ライブツィヒへの旅 vol.4 』2024年2月11日（予定） バッハ：カンタータ第10番、第177番
- ◎『3.11.祈りのコンサート vol.11（独自で）』2024年3月10日 会場未定 モーツァルト：レクイエム（オシュトリীগ版）
- ◎『ライブツィヒへの旅 vol.5 』2024年5月19日（予定） バッハ：カンタータ第10番、第93番、第177番

『ライブツィヒへの旅 vol.2 ～ プログラミングの経緯と覚え書き 』

◆プログラミング、その経緯 Programmierung, wie sie zustande kam

盛岡バッハ・カンタータ・フェライン（以下フェラインと略）は、2020年5月6日に岩手県民会館大ホールにてバッハの「マタイ受難曲」演奏会を、山響アマデウスコア（5月4日：山形市民会館）と仙台宗教音楽合唱団（5月5日：東北大学萩ホール）との合同で開く予定でしたが（オーケストラ：山形交響楽団）、新型コロナウィルス感染拡大のため中止を余儀なくされました。爾来2年半に亘って活動が制約されることとなり、会員数（フェラインでは団員と呼ぶはず会員と呼んでいる）も3分の1にまで激減、このままでは団の存続すら危ういという状況になってしまいました。しかし、バッハを、音楽を、合唱を愛する同志が、どんなに細々とでもいい、この火を絶やしてはならないという強い意志のもとに団結して、コロナ対策をしっかりと行いながら細心の注意のもと、活動を継続してきた経緯があります。その間、2020年6月、続けて2022年の6月には、ドイツはバッハの地元で開催されるライブツィヒ音楽祭に招待され、現地の指揮者、ソリスト、オーケストラと共に「復活祭オラトリオ」を演奏する予定でしたが、これもコロナ禍のために断念せざるを得なくなりました。しかしながら、音楽祭当局のフェラインに対する熱き思い入れは継続され、再来年（2024年）の6月の出演をと再々度のオファーが届き、曲目は変更されましたが、コラールカンタータ300年を記念して、カンタータ第10番、第93番、第177番を演奏できる運びとなりました。

思えば、フェラインでは一昨年のマタイ受難曲演奏会に臨むにあたって、会員と聴衆の皆さんの理解を深め促すために、マタイ受難曲を4つに分割し、オルガンとピアノの簡易伴奏により全てのソリストも自前で担い、『マタイ受難曲への旅』と題したレクチャーコンサートを3度開いたものでしたが、その4回目はコロナ禍で開催できなくなってしまいました。しかし、演奏会本番はいつ開催できるか見通しは全く立たぬものの、何とか4回目を実現させるべく根気強く計画し、それも3度の延期を経て、やっと本年3月に遂行したところでありました。そして、コロナ禍の拡大、減少に一喜一憂しながらも、新たな課題として会員のモチベーションを維持するべく活動をどのように切り盛りしたなら良いかを話し合い、まずは「多様なカンタータを経験しよう！」とのコンセプトのもと、カンタータ選曲に着手、練習に取り掛かり始めたところでした。そんな中、世界を代表するオーボエ奏者でバッハ指揮者のヘルムート・ヴィンシャーマン先生が一昨年（2021年）3月に天寿を全うされて100歳で大往生されましたが、先生に大変お世話になった仙台、岡山の同志たちと共に、先生の追悼演奏会を企画しようという案が持ち上がり、今年の11月に東京、**仙台**、盛岡で実施する計画を立て、現在着々と準備を進めております。

私たちは、盛岡バッハ・カンタータ・フェラインという名称で活動を続けてまいりましたが、翻って音楽史を俯瞰してみますと、あたかもバッハ以前の音楽はバッハに流れ込み、バッハ以後の音楽はバッハから流れ出すという様相を呈していますので、古今東西の全ての音楽はバッハに関連づけられると言っても過言ではなく、その意味では、フェラインでは何の曲でも取り上げられて然るべきと心得て様々な楽曲に取り組んできた経緯があります。その歴史の中には、バッハの4大宗教曲（マタイ、ヨハネの両受難曲や口短調ミサ、クリスマス・オラトリオ）、ハイドンの「天地創造」、メンデルスゾーンの「パウロ」などといったオラトリオの大曲まで含まれ、招聘した世界的指揮者たちからありがたくも名演の誉を頂戴してきたところです。一方で、会員の中には、カンタータ・フェラインと言いながら、バッハのカンタータを一度も演奏したことのない者も少なからずいて、ここは一度原点に返って、音楽の宝宝箱であるカンタータにじっくりと取り組もうとなったわけでありました。今私たちが取り上げようとしているカンタータは、来年の6月までの長いスパン（約1年6ヶ月）の中で次の8曲です（カンタータ第64番、第71番は昨年10/30にすでに演奏済み）。

カンタータ第10番「私の魂は主を崇めます」ドイツ語によるマニフィカト BWV10 1724年

カンタータ第27番「私の終わりがどれだけ近いのか、誰が分かろうか」 BWV27 1726年

カンタータ第64番「見なさい、どれほどの愛を父は示してきたか」 BWV64 1723年

カンタータ第71番「神はいにしえより私の王」 BWV71 1708年

カンタータ第93番「ただ愛する神の支配に任せる者は」 BWV93 1724年

カンタータ第103番「あなた方は泣き喚くだろう」 BWV103 1725年

カンタータ第 140 番「目覚めよと呼ぶ声が私たちを呼んでいる」 BWV140 1731 年

カンタータ第 177 番「私はあなたに呼びかける、主イエス・キリストよ」 BWV177 1732 年

この中では、カンタータ第 71 番（ミュールハウゼン時代）を除いて、全てライブツィヒ時代に作られた作品ですが、このライブツィヒ時代、バッハは聖トーマス教会をはじめ市内の五つの教会で歌われる音楽の責任者でもありました。カンタータは、言うなれば鑑賞に供す音楽ではなく、毎週の礼拝で神様を賛美するために作られた、いわば実用音楽でありますから、教会暦（教会の 1 年の暦）に沿って次々に作曲していかなければならず、しかもそれを合唱団やオーケストラ、そしてソリストたちと練習、稽古をつけていく過程を考えると、それこそ気が遠くなってしまいそうな所業です。それを完璧に成し遂げたバッハ、物凄いとしか言いようがありません。そんな突貫工事じみた環境の中にあっても駄作が一つもないどころか、対位的にも韻律的にも修辭学的にも、ありとあらゆる崇高なメッセージが込められているのですから、バッハの才能たるや驚くべきものであることがお分かりになると思います。

ここで参考までに、バッハが作曲しなければならなかった教会暦は、機会としてどれだけあったのかを以下に掲げます。

◆教会暦 Kirchenjahr（上記 8 曲は太字で示す）

教会暦とは、待降節第 1 日曜日に始まり、三位一体節後第 26/27 日曜日に終わる、1 年を周期とするキリスト教会固有の暦をいいます。ここでは、ルター正統主義下にあったバッハが、1723～1750 年にトーマス・カントールとして教会音楽に携わった当時のライブツィヒにおける教会暦を紹介します。なお、降誕節や顕現節などの祝日は毎年その期日が決まっていますが（固定祝日）、復活節や聖霊降臨節などは年によってその期日が変動します（移動祝日）。後者については後に解説します。

* 待降節 Advent 第 1～4 日曜日：救い主キリストの降誕に先立つ 4 週間で、教会暦の新しい年次の開始を記念して第 1 日曜日は音楽を伴って祝われましたが、第 2～4 日曜日は復活節前の 40 日間（四旬節）と対応して、ライブツィヒでは毎日の改めの期間としてオルガンを除くカンタータ演奏は原則禁じられました。なお、以下の冒頭の括弧内数字は、通算の演奏機会の順次を示しています。

(1) 待降節第 1 日曜日：カンタータ第 36 番、第 61 番、第 62 番

(2) 待降節第 2 日曜日：カンタータ第 70a 番

(3) 待降節第 3 日曜日：カンタータ第 186a 番

(4) 待降節第 4 日曜日：カンタータ第 132 番、第 147a 番

* 降誕節（クリスマス）Weihnachten：キリスト教 3 大祝祭の一つで、第 1 祝日（12 月 25 日）から第 3 祝日までキリストの降誕が祝われます。

(5) 降誕節第 1 祝日（12 月 25 日）：カンタータ第 63 番、第 91 番、第 110 番、第 191 番、第 197a 番、第 248^I 番

(6) 降誕節第 2 祝日（12 月 26 日）ステパノ殉教記念日：カンタータ第 40 番、第 57 番、第 121 番、第 248^I 番

(7) 降誕節第 3 祝日（12 月 27 日）使徒ヨハネ記念日：カンタータ**第 64 番**、第 133 番、第 151 番、第 248^{III} 番

* (8) 降誕節後日曜日：カンタータ第 28 番、第 122 番、第 152 番

* (9) 新年 Neujahr キリストの割礼記念日：カンタータ第 16 番、第 41 番、第 143 番、第 171 番、第 190 番、第 248^{IV} 番

* (10) 新年後日曜日（1 月 6 日以前のみ）：カンタータ第 58 番、第 153 番、第 248^V 番

* (11) 顕現節 Epiphany (1 月 6 日)：カンタータ第 65 番、第 123 番、第 248^{VI} 番

* 顕現節後 第 1～4 日曜日

(12) 顕現節後 第 1 日曜日：カンタータ第 32 番、第 124 番、第 154 番

(13) 顕現節後 第 2 日曜日：カンタータ第 3 番、第 13 番、第 155 番

(14) 顕現節後 第 3 日曜日：カンタータ第 72 番、第 73 番、第 111 番、第 156 番

(15) 顕現節後 第 4 日曜日：カンタータ第 14 番、第 81 番

* (16) 復活祭前第 9 日曜日 Septuagesimae（復活祭前 70 日）：カンタータ第 84 番、第 92 番、第 144 番

* (17) 復活祭前第 8 日曜日 Sexagesimae（復活祭前 60 日）：カンタータ第 18 番、第 126 番、第 181 番

* (18) 復活祭前第7日曜日 Estomihi (復活祭前50日) : カンタータ第22番、第23番、第127番、第159番

* 四旬節 Quadragesimae (復活祭前40日) : キリストの受難に向けた40日間の準備期間です。厳格なる悔い改めの期間として、教会の内外を問わずオルガン演奏を含む歌舞音曲の類いは禁じられ、また結婚式、贅沢な飲食、華美な催しなども慎まれました。

(19) 四旬節第1日曜日 (復活祭前第6日曜日) Invocavi

(20) 四旬節第2日曜日 (復活祭前第5日曜日) Reminiscere

(22) 四旬節第3日曜日 (復活祭前第4日曜日) Oculi : カンタータ第54番、第80a番

(23) 四旬節第4日曜日 (復活祭前第3日曜日) Lätare

(24) 四旬節第5日曜日 (復活祭前第2日曜日) Judica

* 受難週 Karwoche : 復活祭前の1週間で、四福音書の受難に関する記事が4,5世紀より朗読されるようになりました。

(25) 棕櫚の日曜日 (四旬節第6日曜日 (復活祭前日曜日) Palmarum : カンタータ第182番

(26) 洗足聖木曜日 Gründonnerstag

(27) 聖金曜日 Karfreitag : ライプツィヒでは、バッハの前任者のクーナウの時代に、1721年より毎年聖金曜日に聖トーマス教会でオラトリオ受難曲が演奏されるようになりました。1724年に聖ニコライ教会で「ヨハネ受難曲」が演奏されて以来、1年おきに聖トーマス、聖ニコライの両主要教会では受難曲が演奏されています。

* 復活祭 (イースター) Ostern 第1~3祝日 : キリストの復活を祝う祝日で、教会暦中もっとも重要な祝日の一つです。復活祭の期日は、春分の日の後、最初に来る満月の日の直後の日曜日 (3月22日から4月25日のいずれかの日曜日) であると、ニケア公会議 (325年) で定められました。

(28) 復活祭 Ostertag 第1祝日 : カンタータ第4番、第31番、第249番

(29) 復活祭 Ostertag 第2祝日 : カンタータ第6番、第66番

(30) 復活祭 Ostertag 第3祝日 : カンタータ第134番、第145番、第158番

* (31) 復活祭後第1日曜日 Quasimodogeniti : カンタータ第42番、第67番

* (32) 復活祭後第2日曜日 Misericordias Domini : カンタータ第85番、第104番、第112番

* (33) 復活祭後第3日曜日 Jubilate : カンタータ第12番、**第103番**、第146番

* (34) 復活祭後第4日曜日 Cantate : カンタータ第108番、第186番

* (35) 復活祭後第5日曜日 Rogate : カンタータ第86番、第87番

* (36) 昇天節 Himmelfahrt : 復活祭後40日目のキリスト昇天の出来事を記念する祝日です。

カンタータ第11番、第37番、第43番、第128番

* (37) 復活祭後第6日曜日 Exaudi : カンタータ第44番、第183番

* 聖霊降臨節 (ペンテコステ) Pfingsten 第1~3祝日 : 復活祭後50日後の聖霊の降臨を記念する祝日で、復活祭とともにもっとも古くから祝われた祝日です。キリスト教の3大祝祭節の一つです。

(38) 聖霊降臨節 Pfingsten 第1祝日 : カンタータ第34番、第59番、第74番、第172番

(39) 聖霊降臨節 Pfingsten 第2祝日 : カンタータ第68番、第173番、第174番

(40) 聖霊降臨節 Pfingsten 第3祝日 : カンタータ第175番、第184番

* 三位一体節 Trinitatis : 教会暦は、待降節より聖霊降臨節までの半年と、三位一体節後の半年に分かれます。教会暦は、三位一体節後第26ないし27日曜日で閉じられ、再び待降節に回帰するのです。

(41) 三位一体節 Trinitatis : カンタータ第129番、第165番、第176番、第194番

* (42) 三位一体節後第1日曜日 : カンタータ第20番、第39番、第75番

* (43) 三位一体節後第2日曜日 : カンタータ第2番、第76番

* (44) 三位一体節後第3日曜日 : カンタータ第21番、第135番

* (45) 三位一体節後第4日曜日 : カンタータ第24番、**第177番**、第185番

* (46) 三位一体節後第5日曜日 : カンタータ第88番、**第93番**

- * (47) 三位一体節後第6日曜日：カンタータ第9番、第170番
- * (48) 三位一体節後第7日曜日：カンタータ第54番、第107番、第186番、第187番
- * (49) 三位一体節後第8日曜日：カンタータ第45番、第136番、第178番
- * (50) 三位一体節後第9日曜日：カンタータ第94番、第105番、第168番
- * (51) 三位一体節後第10日曜日：カンタータ第46番、第101番、第102番
- * (52) 三位一体節後第11日曜日：カンタータ第113番、第179番、第199番
- * (53) 三位一体節後第12日曜日：カンタータ第35番、第69a番、第137番
- * (54) 三位一体節後第13日曜日：カンタータ第33番、第77番、第164番
- * (55) 三位一体節後第14日曜日：カンタータ第17番、第25番、第78番
- * (56) 三位一体節後第15日曜日：カンタータ第51番、第99番、第138番
- * (57) 三位一体節後第16日曜日：カンタータ第8番、**第27番**、第95番、第161番
- * (58) 三位一体節後第17日曜日：カンタータ第47番、第114番、第148番
- * (59) 三位一体節後第18日曜日：カンタータ第96番、第169番
- * (60) 三位一体節後第19日曜日：カンタータ第5番、第48番、第56番
- * (61) 三位一体節後第20日曜日：カンタータ第49番、第162番、第180番
- * (62) 三位一体節後第21日曜日：カンタータ第38番、第98番、第109番、第188番
- * (63) 三位一体節後第22日曜日：カンタータ第55番、第89番、第115番
- * (64) 三位一体節後第23日曜日：カンタータ第52番、第139番、第163番
- * (65) 三位一体節後第24日曜日：カンタータ第26番、第60番
- * (66) 三位一体節後第25日曜日：カンタータ第90番、第116番
- * (67) 三位一体節後第26日曜日：カンタータ第70番
- * (68) 三位一体節後第27日曜日：カンタータ**第140番**
- * マリアの祝日：宗教改革以前の多くのマリアの祝日のうち、以下の3祝日がリター派に受け継がれ祝われました。

(69) 潔めの祝日 Mariae Reinigung (2月2日)：幼児イエスのエルサレム神殿詣でとシメオンの賛歌の記事に基づいて、主にあ
る安らかな死が主題となっています。カンタータ第82番、第83番、第125番、第157番、第158番、第61番、第200番

(70) 受胎告知の祝日 Mariae Verkündigung (3月25日)：天子ガブリエルが処女マリアにイエスの誕生を予告する記事に基づ
いています。カンタータ第1番、第182番

(71) 訪問の祝日 Mariae Heimsuchung (7月2日)：マリアが、洗礼者ヨハネをみごもったエリーザベトを訪れ、マリアの賛歌
Magnificat を語る記事に基づいています。カンタータ**第10番**、第147番

- * 使徒の記念日：バツハ時代のライブツィヒでは、キリストの使徒の記念日も祝われていました。

- (72) 使徒トーマス (12月22日)
- (73) 使徒パウロの回心 (1月25日)
- (74) 使徒マティア (2月24日)
- (75) 使徒フィリポと使徒ヤコブ (5月1日)
- (76) 使徒ペテロと使徒パウロ (6月29日)
- (77) ゼベダイの子使徒ヤコブ (7月25日)
- (78) 使徒バルトロマイ (8月24日)
- (79) 使徒・福音史家マタイ (9月21日)
- (80) 使徒シモンと使徒ユダ (10月28日)

- * (81) 洗礼者ヨハネの祝日 Johannistag (6月24日)：洗礼者ヨハネの誕生とその父ザカリアの賛歌です。

カンタータ第7番、第30番、第167番

- * (82) 市参事会員交代式 Ratswechsel：ライブツィヒでは毎年、使徒バルトロマイの記念日 (8月24日) の次の月曜日に市参事

会員交代の祝典的礼拝が聖ニコライ教会でおこなわれました。

カンタータ第29番、第69番、**第71番**、第119番、第120番、第137番、第193番

* (83) 大天使ミカエルの祝日 Michaelstag (9月29日) : 大天使ミカエルと悪魔との戦い、そして天使の勝利を記念する日です。

カンタータ第19番、第50番、第130番、第149番

* (84) 宗教改革記念日 Reformationsfest (10月31日) : 1517年10月31日、M.ルターによる95箇条の提題の掲示に始まる宗教改革を記念する日です。ザクセン選帝侯国では、1667年に宗教改革150周年が祝われた後、この祝日が教会暦に定着しました。

カンタータ第76番、第79番、第80番、第192番

* (85) 結婚式 Trauung : カンタータ第34a番、第120a番、第195番、第196番、第197番

* (86) 教会、オルガン献堂式 Kirch- und Orgelweihe : カンタータ第194番

* (87) 葬儀 Trauerfeier : カンタータ第106番、第118番、第157番、第198番、第244a番

* (88) その他教会行事諸々 Andre kirchliche Gelegenheiten :

カンタータ第97番、第100番、第117番、第120b番、第131番、第150番、第190a番、第192番

このように教会行事で年間、バッハがカンタータを提供しなければならなかった機会は信じられないほどの回数であり、これに世俗ものを加えますと優に100回は軽く越えたと思われますから、バッハが如何に超人であったかが解ろうというものです。簡単に整理しますと、バッハがライブツィヒのカントルをしていた当時の教会では毎年70曲を越える教会カンタータ、聖金曜日のための受難曲、マニフィカト等を必要としていたということです。尋常でない数ですね。

◆ライブツィヒ時代前半の教会カンタータ

1723年ライブツィヒにトーマスカントルとして移り住んできたバッハは、毎週1曲の教会カンタータを演奏するという責務を負いました。この時期の前半に彼は、その殆どを自作によって賄うことに挑戦したのでした。

教会カンタータは、教会暦に従って毎日曜日と祝日に演奏されます。その総数は1年間で約60曲にものぼります。これをカンタータ年巻と呼びますが、彼は生涯に5年分作曲したと彼の弟子と息子のC. P. E. バッハによって書かれた『追悼記 Nekrolog』には記されています。その記述を信じるならば、60×5年分で300曲もの教会カンタータを作曲したことになりますが、現在残されている教会カンタータは200曲に満たず、年巻の形で再現できるのは3年分のみです。

彼はその殆どをライブツィヒに赴任した最初の3年間で書き上げました。それは「書き溜めた」と言ってもいいでしょう。カントールとしての業務を請け負うにあたって、これだけの教会カンタータのストックがあればその後の礼拝には旧作の再演で任務を全うすることができると励んだのだと思います。

この3年間はライブツィヒ時代前半としてそのカンタータの特徴をお話したいと思います。

この時期バッハはほぼ毎週のようにカンタータを作曲しています。作曲するだけでなくそれをリハーサルして日曜日ごとに演奏しなければならなかったため、その仕事量たるや想像を絶するものがあります。バッハは計画的に、あらかじめ台本を4週間ほど用意し、並行して作曲にあたっていたようです。

ライブツィヒの初年度にはヴァイマル時代の旧作の再演も見られますが、その多くはライブツィヒ用に大幅に改作されています。またケーテン時代の世俗カンタータに新しい歌詞を当てはめるという、いわゆるパロディの手法を用いて改作されたものも見られます。この初年度、すなわち1723年～24年に新作されたカンタータは以下の通りです（作曲順に）。

カンタータ第22番、第23番、第59番、第75番、第76番、第24番、第167番、第136番、第105番、第46番、第179番、第69番、第77番、第25番、第119番、第138番、第95番、第148番、第48番、第109番、第89番、第80番、第194番、第60番、第90番、第40番、第64番、第190番、第153番、第65番、第154番、第155番、第73番、第81番、第83番、第144番、第181番、第66番、第134番、第67番、第104番、第166番、第86番、第37番、第44番、第194番
実に夥しい数のカンタータが作曲されていますね。

さて、赴任しての第2年度（1724年～25年）ですが、旧作の再演は殆ど見られず、新作をずらりと並べるバッハの勤勉ぶりが窺われます。第2年巻であるこの年のカンタータには一つの統一した特徴が見られるのです。というのは、この年巻のうちのおよそ10ヶ月分のカンタータがコラールを中心として統一されているのです。それは一般的に「コラール・カンタータ」と呼ばれるものですが、それらのカンタータは以下の通りです（作曲順に）。

カンタータ第20番、第2番、第7番、第135番、第10番、**第93番**、第107番、第178番、第94番、第101番、第113番、第33番、第78番、第99番、第8番、第130番、第114番、第96番、第5番、第180番、第38番、第115番、第139番、第26番、第116番、第62番、第91番、第121番、第133番、第122番、第41番、第123番、第124番、第3番、第111番、第92番、第125番、第126番、第127番、第1番

珠玉の如きカンタータが散りばめられています。

ところで、コラール・カンタータとは、一つのコラールをカンタータ全体に渡って使用するというカンタータのことですが、バッハのコラール・カンタータには以下のような特徴があります。

1. 第1曲はコラールの第1節を使った大規模な合唱曲。
2. 終曲はコラールの最終節を使った簡潔な4声体合唱（いわゆるカンツィオナル様式）。
3. 中間楽章はレチタティーヴォとアリアで構成されるが、テキストはコラールのテキストそのものではなく、それをレチタティーヴォやアリアの詩としてふさわしくなるようパラフレーズ（言い換え、再構築）したものが多く。

コラールのテキストを熟知した当時の会衆にとっては、書き換えてあっても、「あ、今この節のことを言っているな」ということがわかったはずで、カンタータを一つのコラールによってまとめ上げることで、さまざまな様式の寄せ集めであり、ともすればバラバラな印象を持たれてしまうカンタータを、統一感のあるものにバッハはしたのでした。バッハのカンタータは、各曲が非常に個性的で多様ですので、意味内容が貫徹していることは、カンタータ全体をまとめ上げる強力な要素となりました。

1725年4月、あと2ヶ月弱ほどで完成するはずであったコラール・カンタータ年間（2巻目）を、バッハは突如として中断してしまいます。その理由は定かではありませんが、共同作業をしていた台本作家（トーマス学校副校長のアンドレアス・シュトーベル？）が亡くなったためではないかと言われています。残りの2ヶ月分は、市長令嬢で詩人のマリアーネ・フォン・ツィーグラの台本によって書かれました。彼女の詩は、バッハが教会カンタータのテキストとして採用した詩のなかでも、とりわけ質が良いと評価されているのです。ツィーグラの台本によって書かれたカンタータは以下の通りです。

カンタータ**第103番**、第108番、第87番、第118番、第183番、第74番、第68番、第175番、第176番

さて3年目に入ると、教会カンタータの創作はゆるやかになり、毎週のように新作が演奏されることもなくなりました。しかし現存するカンタータが少ないというだけで、中には音楽が紛失し、歌詞のみで伝承される作品もあるのですが、そうは言っても現存する作品は以下の10数曲ですので、バッハの筆のスピードが遅くなったというのは間違いなさそうです。

カンタータ第168番、第137番、第165番、第79番、第34番、第110番、第57番、第28番、第32番、第13番、第72番

また、この時期にはバッハの親戚、ヨハン・ルートヴィヒ・バッハの作品を20曲弱も演奏しています。このことも、バッハが教会カンタータを自作することから離れていった様子が窺い知れるのです。

◆楽曲覚え書き、解説に代えて Musik-Memorandum, statt Kommentar

◎ カンタータ第 103 番「あなた方は泣き喚くだろう」 BWV103

初演日：1725 年 4 月 22 日

用途：復活節後第 3 日曜日（コピラータ）

歌詞：書簡章句（ペテロの第 1 の手紙第 2 章 11～20 節）

福音書章句（ヨハネ伝第 16 章 16～23 節）

コラール：ポール・ゲールハルト「慈しみ深き父、至高の神よ」（1653）

編成：独唱 3 部、合唱 4 部、トランペット、フルート・ピッコロ、オーボエ・ダモーレ 2、弦楽、通奏低音

バッハがライプツィヒ着任 2 年目の 1725 年に作曲した作品で、復活節第 3 日曜日のために作曲されたものです。この日読まれる福音書章句の内容は、イエスが弟子たちに語った「悲しみが喜びに変わる」というもので、「受難」という悲しみを通して「救い」に預かれるのだということ、出産の苦しみとも対照させながら説いたものです。女流詩人クリスティーネ・マリアーネ・フォン・ツィーグラの台本によるカンタータの一つであり、ツィーグラ台本を用いた他の作品と同じように、聖句引用に始まりコラールで閉じられますが、第 4 曲レチタティーヴォの歌詞は、原詩とはかなり異なっています。福音書章句（ヨハネ伝第 16 章 16～23 節）のイエスの別れの言葉「あなた方の憂いは喜びに変わります」の聖句から主な着想を得たバッハの音楽は、全曲を通じて「悲しみ」と「喜び」の情念のコントラストによって、音楽表現上の重要な要をなしています。

このカンタータは 6 楽章構成です。冒頭合唱では悲しみが喜びに変わるというテーマを提示し、続く第 2、3 楽章（レチタティーヴォとアリア）は悲しみを、第 4、5 楽章（レチタティーヴォとアリア）はそれが喜びに変わる様子を描写します。終曲コラールでは受難に思いを馳せながらも、束の間の苦しみが喜びへと、永遠の幸福へ変わるだろうと締めくくります。

第 1 曲 多声合唱とアリオーソ（バス）

冒頭合唱は当日読まれた福音書からそのままイエスの言葉を引用します（Johannes 16,20）。中間部ではバスのアリオーソとなりますが、これはイエスの声（Vox Christi）を表しています。異様な半音階に満ちた合唱が超絶技巧のフラウト・ピッコロと共に駆け抜ける悲愴感を表します。

【歌詞】「（合唱）あなた方は泣き喚くであろうが、しかし世界は喜ぶだろう。（バス＝アリオーソ）あなた方は悲しむだろう。（合唱）しかしあなた方の悲しみの喜びへと変えられるだろう」

第 2 曲 レチタティーヴォ（テノール）

この楽章は、悲嘆に暮れるテノールのレチタティーヴォです。愛する人を失った悲しみに打ちひしがれます。

【歌詞】「誰か嘆きに沈まぬ者があろうか、この愛しい人から引き離される時に。魂の救い主、病める心の庇護者は、私たちの痛みに気づいてくれないのだ」

第 3 曲 アリア（アルト）

この曲に現れるギレアドの乳香、そして医者への描写は、旧約聖書のエレミア書 8 章からインスピレーションを受けたもので、イエスの他に救い主はいないと嘆願します。オブリガートにソプラノ・リコーダーかヴァイオリンのどちらかを選べるように書かれており、「あなた（キリスト）が隠れているなら、私は死ぬしかない」と、嘆きの歌になっています。ちなみにここ出てくる「ギレアド Gilead」という聞きなれない地名は、ヨルダン河東の地域一帯の地名を言います。ほとんどが山地なのですが、わずかにある農耕地ではオリーブやブドウが実り、丘の斜面の牧草地では香木が栽培され、乳香（にゅうこう）の産地として名高いそうです。乳香とは、カンラン科ボスウェリア属の樹木から採取される固形の樹脂のことです。バッハのカンタータ第 25 番「私の体、健康なところあらず」のバス・アリアには、「どんな薬草も膏薬も癒しません、ギレアドの乳香ほどには」という歌詞があり、歴史的にギレアドの乳香がいかに重宝されていたかがわかります。

【歌詞】「あなた以外に医者は見出せぬ、ギレアド中を探しても。私の罪の傷を誰か癒してくれるのか、ここでは誰も香油を持っては

はいののに。あなたが隠れるなら私は死ぬ他はない。憐れんでください、ああ、どうか聞いてください。あなたは私の破滅を求めているのではない、そう、だから私の心は希望を持てるのだ」

第4曲 レチタティーヴォ（アルト）

このアルトレチタティーヴォでは、再び冒頭のテーマ、「悲しみが喜びに変えられる」が思い起こされます。

【歌詞】「あなたは私を、この不安の後で再び元気づけてくださる。だから私は、あなたの降誕に備えよう。私は約束の言葉を信ずる、私の悲しみが喜びに帰られるという約束を」

第5曲 アルト（テノール）

第2曲では悲嘆に暮れていたテノールですが、このアリアでは一転、力強く悲しむ心を励まします。1～4曲で全く奏されることのなかったトランペットが登場し、駆け上がるように音階を奏し喜びの勝利を宣言するのです。

【歌詞】「立ち直れ、悲しみ崩れ折れし思いよ。あなた方は悲しみ過ぎている。私がかつて涙に沈んだその悲しい企てをやめなさい。私のイエスは再び現れる。おお、比類なき喜びよ！ 何と幸せなことが起こるのだろう、受け入れてください、私の心を捧げものとして」

第6曲 コラール

終曲コラールは、イエスを一度は見捨ててしまった人間の愚かさ（ペテロの否認）を振り返りつつも、「あなたの束の間の苦しみは喜びと永遠の幸福へと変わるだろう」と締めくくります。この日のテーマに本当にピッタリなコラールです。

【歌詞】「愛する御子よ、私は片時の間あなたを見捨ててしまった。しかし見てください、大いなる幸福と限りない慰めとともに、私はあなたに喜びの冠を被せ贈ります。あなたの束の間の苦しみは、喜びと永遠の幸福へと変わるだろう」

◎ カンタータ第93番「ただ愛する神の支配に任せる者は」 BWV93

初演日：1724年7月9日

用途：三位一体節後第5日曜日

歌詞：書簡章句（ペテロの第1の手紙第13章8～15節）

福音書章句（ルカ伝第5章1～11節）

コラール：ゲオルグ・ノイマルク「ただ神の御旨に従う者は」（1641）

編成：独唱4部、合唱4部、オーボエ2部、ヴァイオリン2部、ヴィオラ、通奏低音

ゲネサレ湖畔で、シモン・ペテロの小舟から群衆を教えたイエスは、シモンに沖へ出て漁をするように命じました。シモンが網を下ろしてみると、夜通し働いて何も獲れなかったはずのところから、夥しい魚が獲れたのです。シモンは驚きイエスの元にひれ伏すと、以後、「人間を獲る漁師」たらんとしてイエスに従っていきました。三位一体節後第5日曜日の福音書章句は、こうした逸話を語っています。

この逸話に含まれている一つの教訓は、人間は神の加護を求めずしては何もなしうるものではなく、全能の神の意志に身を委ねてこそ何かを成し遂げることができる、というものです。1724年の礼拝においては、おそらくこの点にポイントが置かれたとみえ、この日のためのカンタータの基本コラールには、神の御旨への信頼を説くノイマルクの作が選ばれました。カンタータの歌詞は他の作品以上にこのコラールに密着しています。ここでは、ノイマルクの冒頭・中央・最終節（1、4、7節）がそのまま引用され、第2、5曲は引用に自由詩を組み込んだ形、第3、6曲は若干の引用を織り交ぜたアリアへの改作になっているのです。コラールに密着するという態度は、コラール旋律を直接引用する楽章はもちろん、自由なアリアにおいてですら、コラール旋律との密接な関連、ないしその引用が見られます。コラールの根から全ての芽が生え出て、美しく花開いたカンタータ第93番は、「コラールカンタータの模範」（A.デュル）と言うに値するでしょう。

第1曲 コラール合唱

コラール・カンタータ第2巻には、種々の個性ある冒頭合唱曲が配置されていますが、その中でもこの楽曲は、巧緻さとスケールの大きさによって際立っています。まずオーボエを主体とした器楽のリトルネッロが走り出し、直に声楽が入ってきますが、未だコラール旋律の本体ではなく、ソロ的なコラール旋律の先触れなのです。この露払いを受けて、定旋律が合唱によって悠々と姿を表します。器楽のリトルネッロがこれに従い、曲は次第に多彩な様相を見せ始めるのです。

【歌詞】「ただ愛する神のみに支配を委ねる者、いつの時も神に望みを託す者、その人を神は素晴らしく護り支えてくれるだろう、全ての十字架、悲しみの中にあっても。神を至高者として依り頼む人、その人は砂の上に家を建ててはいないのだ」

第2曲 パス・コラールとレチタティーヴォ

コラール・カンタータ第2巻において、バッハがカンタータ第2番から用い始めた、同一ソリストによるコラール付きレチタティーヴォです。これはグレゴリオ聖歌以来の伝統を持つ「トロース」という手法です。バッハは原詩の引用をコラール旋律に基づくアダージョのアリオーソとして敷衍し、自由詩を和声的緊張に富むレチタティーヴォとして間々に配置し、パースペクティブを確保しています。

【歌詞】「この重い憂いは我々に何の助けを為すというのか。それはただ、心を押し潰さんとする百の苦しみ、千の怖れと痛みを持って押し掛かるのみ。この嘆きと悲しみの声が我々に何の役に立つというのか。それは辛い不幸をもたらすだけだ。何の助けになるのか、我々が毎朝ため息と共に眠りから目覚め、涙に濡れた顔で夜な夜な床に就くことが。我々は自分達の十字架や苦悩を、不安な悲しみでただただ大きくしているだけだ。だからキリスト者ははるかに良いことをしている、彼はその十字架をキリストの平安と共に担っているのだから」

第3曲 テノール・アリア

前曲のレチタティーヴォの終わりでほのかに見えた希望が、このアリアで弾むような喜びに高まります。2小節ごとに休止を持つ主題は、コラール旋律の長調への変形であると同時に、このリズムがほとんど民衆的な明快さを持って全体を支配しています。後半に一度だけ長大なメリスマが現れますが、その歌詞 *senden* (送る) にアルファベット数の合計に等しい音符の数であることを修辭学者は指摘しています ($s18+e5+n13+d4+e5+n13=58$)。

【歌詞】「ほんの少しの平安をも保ちなさい、たとえ十字架の時が近づいてきても。なぜなら、我々が神の恵みの御心は決して我々を助言と行いで見放しはしないのだから。神、選ばれし者を知る方、自らを父と呼びし方は、終いにはあらゆる悲しみを変え、その子たちに助けを送ってくださるだろう」

第4曲 コラール付き二重唱 (合唱ソプラノ&アルト)

定旋律に弦楽を配した作品の中央に置かれた二重唱です。両歌声部がコラール旋律に派生した模倣句を繰り広げ、やがて定旋律が響くというスタイルは冒頭合唱にも対応する者です。ちなみこバッハは、この楽章をオルガン用に編曲し、『シュブラー・コラール集』の中に収めました (BWV647)。

【歌詞】「神は正しい喜びの時を知っている。神はよく分かっている、いつそれが役に立つかと。神はただ我々に誠実さを見出し、どんな偽善も感じ取ることがなければ、神は我々が予期する前に来て、多くの善きことを我々にもたらしてくれる」

第5曲 テノール・コラールとレチタティーヴォ

第2曲目と同じトロースの形式によるレチタティーヴォ。しかしその規範が一層拡大し、変化にとんでコラールの6行がいずれも異なった調に置かれます。ルカ伝、列王記の表象の引用を経て、「ペテロの大魚」への言及がようやく行われます。

【歌詞】「自分が困窮の災厄の中にあって、稲妻と雷鳴が轟き重苦しい天候に不安にさせられても、あなたは、神から見放されたと思ってはなりません。神は留まってくれるのだ、大きな苦悩の中でも、それが死に至るまでも、その恵みで持って自分の者たちの側に。あなたは思っていない、こういう人たちが神の懷で護っていただけていると、日々富んだ人々、快樂と歓喜のうちに生きている人たちが。自身に絶え間ない幸福を味わっている人、豊かに良い毎日ばかり送る者は、多くの場合終いには、虚しい快樂に興じた

あとに、「鍋の中に私がある」というに違いないのだ。後には多くのものが変えられる！ ペテロは夜を徹して虚しい労働に励んだが、何一つ獲ることはなかった。イエスの言葉によってペテロは一引きの網によって漁獲を得た。だから貧困と十字架と苦痛の中にあっても、ただひたすらイエスの慈しみに依り頼め、信仰ある気持ちで持つて。雨の後にイエスは太陽の輝きを与え、どんな人にもそのゴールを定めるのだから」

第6曲 ソプラノ・アリア

「私が」の決意を示す最初の2行の歌詞は、コラールにない創作です。音楽にも主を「仰ぎ見る」音型が現れ、雨後の晴天を見上げるような清らかな印象が生み出されるアリアです。アリアの主題音型はコラールと特に関連性はありませんが、歌声部は後半においてコラール旋律を巧みに引用しています。

【歌詞】「私は主を見つめ、常に神に信頼をおく。神は正しい奇跡の人。富める人を貧しく裸にし、貧しい人を豊かに強くして、御心のうちにそれを行うのだ」

第7曲 コラール

全曲を一貫統一し、礎になってきたコラールが、ここで改めて唱和されます。教会に参集した会衆の皆が、神に寄せるべき信頼を心に再び明記するコラールです。

【歌詞】「歌い、祈り、神の道を歩み進め。あなたの務めを忠実に果たしなさい。そうして天の豊かな祝福を信じなさい。されば神はあなたと共にいて、日々を新たにします。なぜなら神は、その期待を神に掛ける人、その人を神は決して見捨てないのだから。」

●『マタイ受難曲』より第25曲コラール「神の望むこと、それは必ず行われる」(アンコール)

【歌詞】

Was mein Gott will, das g'scheh allzeit, sein Will, der ist der beste,

神の望むこと、それは必ず行われる 神の御心、それは最良のもの

zu helfen den'n er ist bereit, die an ihn gläuben feste.

神は助けようと備えている 自分を堅く信じる者たちを

Er hift aus Not, der fromme Gott, und züchtigt mit Maßen:

誠実な神は苦しみから救い そして節度を持って懲らしめる

Wer Gott vertraut, fest auf ihn baut; den will er nicht verlassen.

神に頼り、堅く神に立つ人 その人を神は決して見捨てない

● カンタータ第21番『我が心には多くの憂いがあった』より第9曲合唱「さあ、再び満ち足りなさい」(アンコール)

【歌詞】太字はコラール

Sei nun wieder zufrieden, meine Seele, denn der Herr tut dir Guts.

さあ、ふたたび満ち足りてあれ、私の魂よ、主があなたに善いことをしてくれるのだから。

Was helfen uns die schweren Sorgen, was hilft uns unser Weh und Ach?

この重い不安が私たちに何を助けるのか、この悲しみと嘆きの声が我々に何を助けるのか？

was hilft es, daß wir alle Morgen, beseufzen unser Ungemach?

何を助けるというのか、我々が毎朝自分達の不幸を嘆いて。

Wir machen unser Kreuz und Leid, nur größer durch die Traurigkeit.

我々は自分たちの十字架と苦悩を、ただ悲しみによって大きくしているだけなのだ。

Denk nicht in deiner Drangsalshitze, dass du von Gott verlassen seist,

思ってはいけな、自分が激しい災厄の中にあっても、神に見捨てられたと。

und daß Gott der im Schoße sitze, der sich mit stetem Glücke speist,

そして神の懷に護られていると思っはいいけない、自分にいつも幸福を味わわせている人を見て。

Die folgend Zeit verändert viel und setzet jeglichem sein Ziel.

後には多くのものが変えられ、どんな人にもその終わりは定められているのだから。

◎ カンタータ第 147 番『心と口と行いと生き方が』より 第 10 曲コラール「イエスはいつも私の喜び」(アンコール)

【歌詞】太字はコラール

Jesus bleibet meine Freude, meines Herzens Trost und Saft,

イエスは常に私の喜びであり、私の心の慰めと潤いであり続ける、

Jesu wehret allem Leide, er ist meines Lebens Kraft,

イエスは全ての悲しみを防いでくださる、イエスこそ私の生命の力、

meiner Augen Lust und Sonne, meiner Seele Schatz und Wonne;

私の目の喜び、そして太陽、私の心の宝、そして歓喜です。

darum laß ich Jesum nicht aus dem Herzen und Gesicht.

だから私はイエスを放さない、その御心もその御顔も。

文責：佐々木正利